

第三十六回 「全日本中学生水の作文コンクール」 岐阜県優秀作文集

水について考える

主催
後援

水循環政策本部、国土交通省、岐阜県

文部科学省、厚生労働省、農林水産省、

環境省、全日本中学校長会、

独立行政法人水資源機構、

水の週間実行委員

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただくという趣旨で、「水の週間」の行事の一環として実施しています。

今年、第三十六回を迎え、岐阜県表彰として最優秀賞一作品及び優秀賞二作品を選定しました。

この三作品について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも中学生の皆さんの真剣な思いが伝わってくる作品です。ぜひ御一読ください。

「第三十六回全日本中学生水の作文コンクール」

一．応募要領

- ① テーマ：「水について考える」（題名は自由）
- ② 対象：中学生（中学生と同じ学齢の者を含む）
- ③ 原稿：四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの
- ④ あて先：岐阜県県土整備部河川課（岐阜県内の応募者）
- ⑤ 募集締切日：平成二十六年五月九日（到着分有効）
- ⑥ 著作権等：○応募作品は個人作品に限る。

○応募作品の著作権は国土交通省及び岐阜県に帰属する。

○応募作品は返却しない。

二．応募状況

応募学校数 一校 応募総数 四作品（一年：四作品）

三．審査

応募作品について岐阜県で審査（地方審査）を行い、岐阜県表彰として最優秀賞一作品、優秀賞二作品を

選定。なお、応募のあった四作品は、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。

目次

岐阜県最優秀賞

『すべての源「水」』……………大垣市立赤坂中学校 一年 松浦 遼太郎 3

岐阜県優秀賞

『水のありがたさ』……………大垣市立赤坂中学校 一年 木本 彩楽 5
『水の都と都心でのちがい』……………大垣市立赤坂中学校 一年 小林 渚 7

『すべての源「水」』

大垣市立赤坂中学校

一年 松浦 遼太郎

水とは、すべての命に必ず必要な物で、とても大切な存在だと思っています。

ぼくたちが毎日、水を安全にいつでも使うことができているのは、主に、水のことにかんする、しせつの人々などのおかげだということを知っていますか。水とは、すべての生命の源なので、感謝しながら、毎日使っています。ぼくは、こんなできごとで、水に命を救われました。それは、ある夏の日のとても暑い日のことです。ぼくは、いつものように、友達と遊んでいました。その遊んでいるさいちゅうに、とても、暑くて、たおれかけました。しばらく休んでいても、いっこうに治らず、水を少し飲んで、休みました。そしたら、なんと、少しずつだけど、頭がいたかったことや、めまいがしていたのが少しずつ治ってきたのです。ぼくは、そのときあらためて、「水は大切だ。」「生命の源だ。」「これからも、水に感

謝しよう。」と思いました。

水は、節水しなくてはいけません。水を使いすぎて、使っていないときにも、流しているのをよく見ます。水を、「水なんて、少しくらい使っても、別にいいや。」などと思っている人も、たくさんいるかも知れません。しかし、それはちがいます。一人一人にとっては、少ない水だと思っている人もいられるかも知れませんが、人類にとっては、とても多い水を使っているのです。

みなさんは、水の上手な使い方は知っていますか。水は、貴重な資源です。例えば、はみがきをするときは、コップに水をくんでおくとか、お風呂での水を、せんたくやそうじに使えば九〇リットルの節水になります。このちよつとした心がけですが、この「ちよつと」が、水という、貴重な資源を上手に使うことにつながると、ぼくは思いました。

ここは、水の町、大垣市です。水の都と呼ばれています。しかし、水の都だからといって、たくさん水を使っているわけではありません。水は、とても、大切な資源なのです。ぼくたちは、水のたくさんあふれる、水の町で育ってきました。水はどれだけでもあるわけじゃないので、水は、とても大切な資源なのです。どうして、水を大切にしないといけないのか、よく

考えてみてください。たとえば、もし水がなくなって、人々が生活できないじょうきょうになったら、どうなりますか。

水は、人々や動物たちが生きていくために、とても大切な存在なので、水は、たくさん使ってはいけないと思います。そして、水の町、水の都だからといって、かってに、たくさん使っては、ぜったいにいけないと思います。

水は、すべての生命の源なので、大切に大切に、少しずつ、もったいない水をなくすために、水を使えば、むだな水は、なくなっていくのではないのでしょうか。

『水のありがたさ』

大垣市立赤坂中学校

一年 木本 彩楽

私たちにとって水は、かけがえのない存在です。また、命を守ってくれるものでもあります。その水を大切に使用するために私たちは、考えて使うことが必要だと思います。生活する中で、かぜ予防をするために手洗いうがい、食事のために料理するなどさまざまなことで使います。少しでも節約するために水を出しっぱなしにしないこと、出す量を考えて使えば大切にすることができます。

次に、水は私たちを育ててくれると思います。人間や動物は、水があることによってたくさん成長し、たくさんのお水を学んだりすることができます。そして植物は、水を使って成長し、花をさかせます。花がさくから花見などもできるのだと思いました。

水力発電というのを知っていますか。水力発電では、水で電気をつくっています。水のおかげで電気をつくることができ、私たちが学習したり暗いところや夜でもつらい思いをせずに暮らせると思っています。どんなときでも私たちがたくさん学べるようにあるのだと思いました。一てきの水でも、水を使っているので減っていききます。一てきの少ない量でも大切にしようと思いがけて使うことが一番いいと思います。

生物が生きていくために水が必要であり、人間にとってもこのことは大切だと思います。たとえば魚は海や川などに住んでいます。海や川にも水があるから住んでいけるのだと思います。海や川に魚がたくさんいるから私たちが生活していくうえで食料にして食べたりできているのだと思います。感謝をして食べているけれど、水があったからだと思います。自分がいいから他の貧しい国や人々は別にいいのではなく、そのことも考えて自分の行動をふり返ることでこれからはますますいい生活ができると思いました。

水は、雨や雪からできています。雨や雪が降ってこないとだんだん水の量が減り、あまり使えなくなります。けれど雨や雪が必ず降ってくれるということにも感謝し、水を使いた

いです。大切なものと知っておきながらむだに使ってしまう
ということのないように、水がたくさんあるという、うれし
さがあるということを忘れずに行きたいです。

特に、私たちが住んでいる大垣市は水の都であり、きれい
な水であたり前のように使っています。けれど貧しい国では、
どろ水を使ったりしてあまり体の栄養を考えるとよくないと
思います。それに、すぐに飲んだりはできない水だと思いま
した。そのことも考え、自分たちはあたり前のようにしてい
るけれど、きれいな水が使えていてとてもしあわせだと心に
思い、いつも一てき一てきの水を大切にしていきたいです。
また、きれいな水をむだのないように自分で考えて、水の量
を思いながら使いたいです。水があることによって、私たち
が明るく、あたり前にしあわせに暮らせていると思い、笑顔
があり続けられるように、水へのありがたさを今まで以上に
思い、大切にしていきたいです。

『水の都と都心でのちがい』

大垣市立赤坂中学校

一年 小林 渚

私たちは、ふだんいろいろな場面で水を利用しています。

例としては、手を洗う時、食器を洗う時など考えてみればいくつもあります。私たち人間はこのようにふだんから水を日常的にいろいろな場面で利用しています。今となっては水は私たちの生活になくはないものになっています。

私は、二〇一一年の東日本大しん災で水の大切さがよく分かりました。それまでは水が出しっぱなしになっていたり、節水という言葉も知らなかったのですが、東日本大しん災が起こりテレビで被災地の方々には水がなかったり、他にも食料や衣服などさまざまなものがなくて困っていました。

その時に私は水の大切さや水の大事さが分かりました。大垣市は水の都で、私は水がたくさんあるから他の県と比べて

水に困らなくてもいいし、少しくらいはいいと思っていました。

また、名古屋（愛知県）や東京二十三区（東京都）では、地下水からではなく川などから水をとり、消毒をして利用しています。その水は飲む事はできるけども消毒が入っているために私たちがふだん飲んでいる水よりおいしいとは言えない味だと思います。

さらに、その地域などでは、消毒が入っている水なので、スーパリーなどで売っている天然水を買ってその水を飲み水として飲んでいきます。これが都心での飲み水の利用です。

それに対して、大垣市（水の都）での飲み水の利用は、食器を洗う時にも使っている水道水です。これは水道水が安全でおいしい水だと思えているからこそ水道水が飲んでいるんだと思います。

これらのことから、私は大垣（水の都）での水道水の水は、みんなから信らいされている水であるんだと思いました。また、安心して飲めるために努力をしている人もすごいなと思いました。

私は小学校の三年生の時に興福地町にある水源地に学校からみんなと見学に行きました。そこではいろいろな機械で水

のきれいさやよごれがないか細かく調べている所に「すごいな」や「努力している人のためにも水をもっと大切に粗まっにあつかわないようにしなくちゃいけないな」など水に対する姿勢が変わりました。

それからは、水を出しっぱなしにしない、やたらと水を使わないなど自分なりに水を大切に利用することを決めました。

二〇一一年大しん災でも水が足りないなどさまざまなに困っている事がありました。

私は、その時に水を大垣から送れないのかと考えました。水があったとしてもどろなどが入っているし、飲むとしては無理なものだろうと考えていました。テレビを見て一秒でも早く被災者の方々にちゃんとした食料や水をあげたいと思っていました。

だけど私が一人どうこう言っただけでできないことは承知していたので心から祈ることしかできませんでしたが、学校などでの一円募金などで少しは支援できたかなと思いました。

これからも私は水を大切に、無だ使いをしないようにしたいです。